

肺を用いた検討一

産業医大放射線科 平方敬子
 中田 肇
 同 第1病理 原武謙二
 転移性肺結節辺縁の進展形態とHRCT像を対比検討した。転移性肝癌の82%は圧排型進展を示し、HRCT像は辺縁明瞭平滑であった。腺癌は間質内増生型が47%、肺胞上皮細胞型が52%であり、辺縁不整なもの74%、不鮮明なもの87%であった。扁平上皮癌は肺胞内充塞型と間質内増生型が各々50%であり、辺縁不整なもの71%であった。転移性肺結節は各組織型により異なった進展を示し、これはHRCT像によく反映されていた。

83. 同一肺葉内重複癌の1例

佐世保市立総合病院内科
 草野洋介, 吉田真一郎
 増本英男, 須山尚史, 荒木 潤
 浅井貞宏
 同 外科 南 寛行
 窪田英佐雄, 中村 讓
 長崎大第1病理 岩崎啓介
 症例は73歳, 男性。胸部X線
 上右中肺野に腫瘤影を認め、
 S³aよりの気管支鏡下肺生検で、
 腺癌の診断を得た。CTで右
 S³aに胸膜陥入像を伴う径2cm
 の結節影、右S²bに径3cmの淡
 い浸潤影が認められた。他に転
 移はなく、右上葉切除術が施行
 された。切除標本では両者の間
 に連続性はなく、S²bよりの標
 本は高分化腺癌、S³aよりの標
 本は中分化腺癌であった。リン
 パ節にも転移は認めなかった。
 以上より同一肺葉内重複癌と考
 えられた。

**84. 同側他葉にみられた同時性
肺多発癌の2例**

大分市医師会立アルメイダ病院
 胸部外科 万田充俊, 岡田秀司

同 呼吸器科 増田 満
 三重野龍彦
 同 病理 森内 昭
 大分医大第2内科 黒田芳信
 永井寛之, 田中雄二

79歳男性に発症した肺芽細胞腫と小細胞癌と70歳女性に発症した扁平上皮癌と腺癌の肺多発癌の2手術例を報告した。前者は6ヵ月後、後者は4年9ヵ月後に癌死した。

85. 肺・大腸重複癌の2例

佐世保中央病院外科 碓 秀樹
 鳥越敏明, 國崎忠臣, 菅村洋治
 石橋経久, 中村 徹, 七島篤志
 長崎大原研病理 関根一郎
 近年、重複癌は増大傾向にある。最近経験した肺・大腸重複癌の2例を報告する。症例1は73歳男性、肺扁平上皮癌にて右中下葉切除(PT₂N₂M₀)後、5年後に直腸癌(高分化腺癌)にて高位前方切除術施行(異時性)。症例2は76歳男性、肺扁平上皮癌にて左上葉切除(pT₁N₀M₀)と内視鏡下に下行結腸のポリープ摘除(腺腫内癌)施行後、10ヵ月後に上行結腸癌(中分化腺癌)にて右半結腸切除術施行(同時性)。

**86. 異時性小細胞重複肺癌と胃
癌の三重癌の1症例**

国病九州がんセンター呼吸器部
 川崎雅之, 佐藤邦彦, 澁谷浩二
 高森信三, 矢野篤次郎
 前田和信, 麻生博史, 一瀬幸人
 原 信之, 大田満夫
 症例は79歳, 男性で既往歴として'76年1月, 小細胞肺癌:pT2N0M0, I期, '88年1月, 胃癌(腺癌)I期がある。'90年8月肺炎後の右中葉の結節影の増大を認め、12月気管支鏡下擦過細胞診にて小細胞癌(cT2N0-M0, I期)の診断にて、現在化学放射線療法を施行中である。

肺小細胞癌は、手術後14年経

過しており一次癌が早期であること、対側に出現したことなどより重複癌と考え、かつ胃癌を合併した非常にまれな症例であると考え報告する。

87. 肺癌を中心とした多重重複癌の検討

熊本地域医療センター呼吸器内科
 深井祐治, 千場 博
 同 放射線科 吉岡仙弥
 同 病理 蔵野良一
 自衛隊熊本病院内科 柏原光介
 中村博幸

肺癌を中心とした多重重複癌は36例(1982, 1月~1991, 5月)認め、全肺癌症例の8.2%に相当した。重複臓器は胃11例、結腸・直腸7例、肺7例、食道3例の順に多かった。肺癌患者は二次癌として上、下部消化管癌を考慮して経過観察が必要と思われる。